会議録	
会議名	第４回三豊市地域公共交通活性化協議会
日　時	令和２年１１月２７日（火）１４時～１６時１０分
場　所	三豊市役所　西館大会議室
出席者	［委員］１１名 宮崎耕輔（会長）、紀伊雅敦（副会長）、小野英樹、 鴨田嘉史、峰久數俊、南壮憲、齊藤亮、滝口直樹、 藤井浩基（近藤委員代理）、手嶋一了、五領田和夫 ［事務局］４名 交通政策課（石原課長、細川課長補佐、金藤主任、田尾副主任） ［委託業者］２名 株式会社地域未来研究所（小野田、義浦）
議　事	・上位、関連計画の整理について ・各種調査の結果について ・ニーズと課題の整理について

発言者	会議要旨
	＜開会＞
宮崎会長	**１．会長挨拶**
	２．上位・関連計画の整理について
事務局	＜説明＞
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。
紀伊副会長	立地適正化計画で都市機能誘導区域が設定されるが、三野町と高瀬町の一部が追加されることになった。都市機能誘導区域には都市機能が集約されるため、市全域から当該区域へのアクセスを確保していくことが公共交通として求められる。そういったことをイメージしながら検討を進めてもらいたい。
手嶋委員	立地適正化計画の策定により、人口密度を高め、それに応じた公共交通網を構築していく必要がある。このため、ミクロな視点から、都市計画を進めていくにあたっての過程や、それに向けての公共交通のイメージを教えていただきたい。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略や観光基本計画における公共交通の位置づけを教えていただきたい。

事務局	公共交通をイメージした時に、エリアや拠点間の関係性は、例えば詫間と高瀬、北部と中部、南部、それぞれ異なってくる。それらについて一概に検討するのではなく、エリアや拠点間の関係によって、交通手段は変わることを意識する必要がある。まち・ひと・しごと創生総合戦略には、KPI 指標として、新たな交通手段の導入検討が掲げられている。観光基本計画には、二次交通の充実や観光地周辺のインフラ整備について掲げられている。
宮崎会長	公共交通ネットワークを構築していくにあたり、関連計画や将来のまちづくりの方向性知っておく必要がある。現在の路線図は、都市計画との関連性が読み取れないため、市民への浸透等を考えるのであれば、見直しが必要である。
手嶋委員	目的地は主要拠点や観光地だけではなく、買い物や通院等もあるため、関係するニーズは押さえていく必要がある。
宮崎会長	三豊市ではさまざまな取組が進められているため、引き続き関係者で情報共有をしていきたい。
	３．各種調査の結果について
事務局	＜説明＞市民アンケート、民生委員児童委員アンケート、コミュニティバス利用者アンケート、航路利用者アンケート、宿泊施設アンケート、交通事業者アンケート、ヒアリング調査各結果、市民の外出状況について
手嶋委員	「公共交通利用の際に困る主な外出目的」と「公共交通利用の際に困る主な事項」が示されているが、目的毎に困る主な事項について整理はしているか。通勤・通学・通院等の定期利用は、安定した需要が見込めるため、どのように利用を継続させるか等、利便性向上について考える必要がある。定期外利用は、定期利用とは異なる理由で利用しない傾向にある。 「調査日の外出目的」で、三豊市外の人が趣味・娯楽で 24%、6 人ぐらいの人が利用されている。これらの人の行き先はわかるのか。「調査日の主な行き先」が示されているものの、趣味・娯楽となるような行き先が示されていない。
事務局	目的毎に困る事項を整理したが、すべての目的において「路線はあるが、行きたい時間に運行していない（本数が少ない）」の割合が高かった。 趣味・娯楽の行き先は、データとして紐づいている。市外から、ふれあいパークみの等の温泉施設、ゆめタウンへのアクセス方法について、市役所へ問い合わせがある。

南委員	鉄道会社では、利用者アンケート調査は実施するものの、市民アンケート調査を実施することができないため、とても参考になるデータを提供いただいた。コロナ禍により、公共交通から自家用車への転換がみられることがわかった。
宮崎会長	「公共交通の利用頻度が少なくなった理由」で、「新型コロナウイルス感染症が怖いから」との回答が多くなっているが、外出自体が怖いのか、それとも公共交通の利用が怖いのかが不明であり、混在していると考えられる。アンケート調査結果は、参考程度に見ていただきたい。 「頻度が少なくなった外出目的」で「通院」があるが、コロナ禍に入り、病院側で通院回数を減少させていたところもある。一方で、外出しないこと自体が問題なのか、外出するかしないかの選択もあり、単純に外出回数で判断することは難しい。外出状況の詳細は、住民を対象としたワークショップ等で把握した方が良い。アンケート調査について、クロス集計等の要望があれば、事務局に問い合わせてもらいたい。 乗継券の不正利用について示されているが、具体的に教えて欲しい。
鴨田委員	乗継券は、当日に限り、コミュニティバス同士の乗り継ぎができるように発券されるものである。しかし、同じルートを運行しているコミュニティバスに乗車し、復路で利用している人が僅かだが存在する可能性がある。
宮崎会長	乗継券の対応については、今後、料金体系も含めて議論することになると思われる。また、タクシー利用券配布の要望があるが、現在の利用状況であれば、そのような対応をすることができる。しかし利用者が増加した場合、タクシーでは対応することは難しい。本日開催されたバスの乗り方教室の参加者の反応を見ると、多くの人が興味を持たれていた。利用者が少ないと、運行事業者もやりがいを持つことが難しいため、運行事業者も楽しいと思えるように取組を進めていきたい。外出状況について、財田地区は高瀬方面には向かっていないが、都市計画の都市将来像は財田地区と高瀬地区が地域連携軸で結ばれている。これをどのように判断するのか、今後検討していかなければならない。南部地域の現地調査結果も踏まえる必要がある。
	４．ニーズと課題の整理について
事務局	＜説明＞
宮崎会長	すべての調査結果をまとめてしまうと一般論になってしまう。今後、対応策に繋げることが課題であるため、どのようにまとめるか、テコ入れが必要である。

齋藤委員	市民の外出状況が整理されているが、各町で活動が完結しているように感じた。具体的にどのような場所に向かっているのかを抽出すれば、コミュニティバスのルート見直しや他の交通手段での補完について検討できるのではないか。警察としては、免許返納により、自家用車から自転車へ転換されることは安全面を考えると困るため、公共交通の充実が必要である。山間部での自転車利用は、特に危険である。
手嶋委員	先ほども述べたとおり、定期利用に対してはこれまでの調査結果を踏まえ、利便性向上について検討する必要がある。定期外利用に対しては、観光施設を対象としたアンケート調査結果や現地調査結果のほか、潜在的ニーズもあるため、それを踏まえた検討が必要である。課題に、モデルルートの紹介が挙げられているが、典型的なモデルルートは時間を要するため、あまり利用されない傾向にある。モデルルートを作成する場合は、所要時間がわかるものにすべき。
宮崎会長	モデルルートは所要時間を示した方が良い。運賃についてはフリーパスや企画切符等いろいろな取組がある。本日、地域公共交通活性化再生法が施行されたが、協議会で協議運賃というものが設定できるので、それを活用する方法も考えられる。他部局との連携も考えられる。
紀伊副会長	乗り継ぎの話に関連するが、ICT について導入予定はあるのか。またコミュニティバスを利用しない理由として、利用したい時間に運行されていないからというものが多かった。利用しやすくするためには、パーソントリップ調査結果等を参考に、移動時間について把握する必要がある。さらに観音寺市への移動が多いため、他市との連携についても検討していく必要がある。
事務局	ICT の取組としてはバスロケーションシステムの導入を検討している。現時点で確定しているものはないが、新たな技術の活用は検討していきたい。広域的な移動が多いことは本市の特徴であり、他市との連携は課題である。
宮崎会長	他市とは連携していきたい。ニーズの把握方法として、経路検索データの活用も考えられる。パーソントリップ調査結果の活用も考えられるが、サンプル数の問題がある。地区毎にヒアリング調査を実施する方法もある。
五領田委員	説明を聞き、これからだと感じた。交通事業者の意見は課題に反映してもらいたい。

事務局	**５．その他** 　南部地域の現地調査を 12 月 14 日(月)に実施するので、可能であれば委員各位にもご参加いただきたい。次回の協議会は 2 月の開催を予定している。
宮崎会長	以上で、第４回三豊市地域公共交通活性化協議会を終了する。